

観光資源に着目したコロナ禍での宿泊予約の変化の分析

An Analysis of Changes in Accommodation Reservation Status in the COVID-19 Pandemic Focusing on Tourism Resources

鈴木 祥平[†]
Shohei Suzuki

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の感染拡大によって不要不急の外出自粛が呼びかけられ、宿泊産業は大きな影響を受けた。2020年には多くの宿泊施設の宿泊者数が減少し、2022年現在も2019年以前の状態に戻ったとは言えない状況である。このような状況を改善するためには、Go To トラベルキャンペーンのような、国や地方自治体による支援は必要不可欠であり、これらの公的な支援策はなるべく迅速かつ公平に、より多くの宿泊施設が利益を享受できるような形で実施されるべきである。そして、今後また新たなパンデミックが発生した際に、より適切に対処するためには、2020年当時の状況の分析と、その結果に基づき改善が必要である。しかし、既存の観光統計は都道府県単位で公表されているものが多く、より細かい市区町村単位での分析が行える地域は限られている[1]。また、観光庁等によって公表されている観光統計では宿泊施設単位の分析を行うことはできないため、パンデミック時の状況を詳細に知ることは困難である。一方、民間企業であるOTA（Online Travel Agency）のデータを用いることで、より細かい市区町村単位や宿泊施設単位の分析を行うことが可能である[2]。

OTAデータを用いてCOVID-19の影響を分析した研究としてSuzuki et al.の研究[3]が挙げられる。彼らの研究によると、コロナ禍では価格の高い宿泊施設が消費者から選ばれる傾向にあり、ホテルよりも旅館の方が選ばれやすい傾向にある。これらの要因として、コロナ禍においては感染症対策を含め、より質の高いサービスが求められていることが挙げられていた。一方で、「温泉」など、地域特有の観光資源の影響を受けている可能性も指摘されていたが、この影響についての定量的な分析は行われていない。

そこで本研究では、先行研究と同様にOTAデータを用いて、コロナ禍において予約数が減少したと考えられる宿泊施設を抽出する。そして、各地域の観光資源の種別が宿泊予約に与えた影響を探索的に分析し、より多くの地域や宿泊施設にとって望ましい支援策について考察する。この研究により、観光資源の視点から、パンデミック時の観光行動に関する新たな気づきが得られると考えられる。

2. 研究手法

2.1 使用データ

前述の通り本研究では、観光に関する様々なデータの中でも、OTAデータを用いた分析を行った。具体的には日本

国内において特に利用者数の多いOTAである「じゃらん」のデータを使用した。分析に使用するデータは2020年（コロナ禍）と、2019年（平常時）のデータを使用し、それらの中でも、Go To トラベルキャンペーンが開始される前の6月と7月のデータを使用した。

次に、観光資源の情報源として日本交通公社の観光資源台帳[4]を使用した。観光資源台帳は2020年7月より新たなWebサイトで最新版が公開されているが、最新版は未更新の都道府県が多く、全国の観光資源についての網羅的な情報が記載されていない。したがって、本研究では、全国の情報が記載されている「(旧)観光資源台帳」を使用しているが、表現を簡潔にするため、以下では「観光資源台帳」と記載する。観光資源台帳では、日本の観光資源を「特A級資源(55件)」、「A級資源(396件)」、「特別地域観光資源(2,329件)」に分類している。本研究では、宿泊予約に影響を与える可能性が高い特A級とA級の資源を分析対象とした。

分析対象となる宿泊施設は前述の期間に存在した宿泊施設の中でも、特A級とA級の資源が存在する市区町村の宿泊施設とした。具体的には266市区町村の6,286の宿泊施設数を対象とした。

2.2 分析方法

本研究では以下の手順で分析を行った。まず、宿泊施設単位で2019年と2020年を比較し、予約数が減少していると考えられる施設とそうでない施設を分類した。その際に、OTAから取得した、宿泊日前日時点で予約可能なプラン数（以下、残りプラン数）を使用した。残りプラン数は連休などの宿泊者数が多い際には少なくなり、平日などの宿泊者数が少ないときに多くなる傾向にあり、予約数と負の相関関係にあることが先行研究で示されている[2]。残りプラン数については、都道府県など、特定のグループごとに集計を行った場合、グループ内で規模の大きい（提供プラン数の多い）宿泊施設の影響を強く受けることが問題とされているが、本研究では宿泊施設単位での比較を行うため、規模の影響を考慮する必要はない。

分類の具体的な方法としては、各宿泊施設について6月から7月にかけての土曜日の平均残りプラン数を算出し、その値を2019年と2020年で比較した（Welchのt検定）。この結果によって宿泊施設を、平常時（2019年）と比較して残りプラン数が有意差に増加した施設、有意差がない施設、有意に減少した施設に分類した。なお、土曜日のみの残りプラン数を使用するのはビジネス目的の宿泊の影響を最小限にするためである。

次に、上記の分類を従属変数とした回帰モデルを推定した。今回は従属変数がカテゴリカルなため、ロジスティック回帰分析を行ったが、本研究では、後述するように、分類の結果が2つのカテゴリに分類されたため、二項ロジス

[†]東京工科大学メディア学部 School of Media Science, Tokyo University of Technology

ティック回帰分析を使用した。なお、独立変数については観光資源台帳で用いられている資源の種別 (24 種類) をダミー変数として使用した。また、モデルには市区町村特有のランダム効果を含めて推定を行った。

3. 結果と考察

まず、COVID-19 の影響による予約状況の変化に基づく宿泊施設の種類結果を述べる。残りプラン数が有意に減少 (予約数が増加) した宿泊施設は約 10% であり、反対に約 40% の宿泊施設が前年よりも残りプラン数が有意に増加 (予約数が減少) していた。この結果から、多くの宿泊施設が COVID-19 による負の影響を受けていたことが読み取れる。なお、残りプラン数が有意に減少した宿泊施設が約 10% と少数であったため、これらの施設は有意差なしの施設と併合した。これらの施設は、コロナ禍においても予約数が大きく減少しなかったと考えられるポジティブなグループであると言える。一方で、残りプラン数が有意に増加した施設は COVID-19 による負の影響が強いネガティブなグループである。本研究では、宿泊施設をこの 2 つのグループに分類した。

上記の分類を従属変数として二項ロジスティック回帰分析を行った結果を表 1 に示す。なお、Pseudo R^2 は McFadden の方法によって算出した。観光資源の各種別の影響としては、「温泉」が特に強い正の影響を与えていた。この結果は、コロナ禍において多くの人々が温泉地に訪れたことを示唆しており、2020 年 4 月に行われた Tripadvisor による調査[5]において、次に旅行をする際のテーマとして「温泉旅行」が最も支持されていたことが、実際の行動に移された結果であると考えられる。一方で宿泊予約に最も強い負の影響を与えていたのが「食」である。この結果の要因としては、分析対象期間 (2020 年 6 月・7 月) 当時は、飲食店に対する規制が厳しく、飲食を主目的とする旅行者が少なかったことが考えられる。これらの結果が示すように、同じ宿泊産業であっても、地域の観光資源によって、パンデミック時の集客状況は異なると言える。パンデミック時に需要が高まった温泉地のような例もある一方で、飲食店への規制が宿泊予約に大きく影響する宿泊施設も存在する。公的な支援策を実施する際には、公平性を保つためにも、パンデミック時の観光行動を分析し、特に負の影響が強いと考えられる地域の宿泊施設には、他の宿泊施設とは異なる支援を検討する余地があると言えるだろう。

4. おわりに

本稿では、COVID-19 により大きな影響を受けた宿泊産業に着目し、OTA での予約可能なプラン数の変化を分析することで、観光資源の種別が宿泊予約に与える影響について分析した。その結果、「温泉」のようにコロナ禍においても宿泊予約の維持へ貢献することができる観光資源がある一方で、「食」のように宿泊予約に負の影響を与える観光資源も存在することが明らかになった。したがって、公的な支援を行う際には、宿泊産業を一律に扱うべきではないと言えるだろう。

本研究にはいくつかの研究課題が残されている。1 つは観光資源と宿泊施設との対応である。本稿では観光資源と宿泊施設が同じ市区町村に存在する場合は、観光資源が当該施設の宿泊予約に影響を与えると仮定した。しかし実際には、同じ市区町村にあっても観光資源の影響を受けない

表 1 観光資源の宿泊予約への影響

	標準偏回帰係数	標準誤差
山岳	0.004	0.065
高原・湿原・原野	0.117	0.062
湖沼	-0.006	0.059
河川・峡谷	-0.026	0.047
滝	0.056	0.069
海岸・岬	0.155*	0.061
岩石・洞窟	0.071	0.053
動物	0.041	0.062
植物	0.170*	0.082
自然現象	-0.034	0.058
史跡	-0.119*	0.056
神社・寺院・教会	0.002	0.082
城跡・城郭・宮殿	-0.155	0.096
集落・街	0.004	0.097
郷土景観	-0.043	0.071
庭園・公園	-0.211*	0.105
建造物	-0.089	0.095
年中行事 (祭り・伝統行事)	-0.151	0.088
動植物園・水族館	-0.017	0.088
博物館・美術館	-0.088	0.098
テーマ公園・テーマ施設	0.210	0.160
温泉	0.354**	0.071
食	-0.337**	0.113
芸能・興行・イベント	0.073	0.127
Observations	6,286	
Pseudo R^2	0.126	

. $P < 0.1$, * $P < 0.05$, ** $P < 0.01$

施設も存在すると考えられるため、物理的あるいは時間的な距離や、観光資源の特性を踏まえた上で、観光資源と宿泊施設を対応させる必要がある。また、モデルの適合度も十分であるとは言えないため、上記の課題も踏まえた上で、他の変数を加えるなどの改善が必要である。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP21K17978 の助成を受けたものである。ここに記して謝意を表する。

参考文献

- [1] 岡本直之, 小笠原悠, 鈴木祥平, 日原勝也, “地域観光統計の整備・公表の状況と課題”, 観光科学研究, No. 13, 61-70 (2020)
- [2] Suzuki, S., “Use of online travel agencies as a data source for tourism marketing”, *Journal of Global Tourism Research*, Vol. 5, No. 2, 167-171 (2020).
- [3] Suzuki, S., Okano, Y., Takahashi, K., “The impact of travel subsidy on individual accommodations under COVID-19 pandemic: Analyzing changes of plans listed on an online travel service”, *Journal of Global Tourism Research*, Vol. 7, No. 1, 61-68 (2022).
- [4] 日本交通公社, “観光資源台帳”, <https://www.jtb.or.jp/page-search-tourism-resource/>
- [5] Tripadvisor, “新型コロナウイルス感染症に関する旅行者調査”, https://www.tripadvisor.jp/blog/wp-content/uploads/2020/07/0521_pressrelease_attachment.pdf